



門ヲ多  
番 678  
卷

茶川十組香私記

菽香舎春龍著

十組香



香枚は種一色二色三色  
一三二客の札二枚の括弧取く圓之初め客の香六  
いほふふふのれと打或は白の香一と同客や  
なりか一のれと打別の香一なりか一のれと打二客見  
おも客一と二考合と二客一と客一のれと打又  
替りたるもなりか一のれと打客は白月と出る客二二



同 一 二 三 一 一 一 二 一 二 三

一

同 一 二 三 一 一 一 二 一 二 三

一

同 一 一 二 二 二 二 二 一 一

一

同 一 二 一 二 二 二 一 一 一

七

年号月日

於何亭  
か香雅

宇治の番

秀毅の娘一色我房の二色於の年月三二色麻生

四色世成の三二色八二二色内を色と六色成

又を色り本秀の娘之試のめ雅成りて本者

七色娘の一色八色八娘の二色記極成

用福生ハ二色或人ハ二色一色

宇治の番之記

秀祖

一 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十  
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十  
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

名系 昔成らるる

同 朝乃きり

同 麻生

同

この香を

同

人にいふ

同

都れきん

年月日

於何亭  
出香誰

小草香

香殿之類式ハ此種ノ香ニシテ其ノ香ノ名ハ字數  
ハ一ノ字ニシテ其ノ香ノ名ハ字數ニシテ  
其ノ香ノ色ヤ其ノ香ノ色ノ香ニシテ其ノ香ノ色ノ内ニ其  
ノ香ノ色ノ色試ニ其ノ香ノ色ノ香ノ色ノ内ニ其

香乃名

春

あけぼの

たんぽ

ほろし

夏

あじさい

しらべ

秋

あき

きん

あき

冬

ふゆ

ゆき

この香を

三

小草香之記

香組 五月 十日

やうきふ

名系

あいらい

皆

同

あいらい

一

同

あいらい

一

同

あいらい

同

あいらい

皆

本年号月日

出 於何亭 香櫃

小鳥香

香教の類 一色 二色 三色 四色 五色 何色も減る 一三

二色 一色 二色 一色 一色 又 三二 四色 一色 二色 一色 一色

一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色

一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色

一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色 一色

鳥の名

三回香

あいらい

あいらい

三二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

二二同書

*Handwritten signature*

各別書

*Handwritten signature*

右の二二同書と小鳥乃名は書物に

小鳥香紙

香組

二二二  
四月四日

名紫

*Handwritten signature*

同

*Handwritten signature*

同

*Handwritten signature*

同

のしらたの

同

のしらたの

年号月日

於河亭  
かき誰

源氏書

昔は源氏書の色は二十の色より更に二十の色は  
ての色は試みかゆれ変化する事あり  
お短しに別の番に用ひ糸及び図と書か  
三回書し字は空掬の糸と書か

平して初

糸掬と用

のりハ各一

の種ありの下の玉字と書三の短ハを教

と書

源氏番乃圖

棟	未摘花	幕本	空掬	夕歌	若紫
			紅糸	花高	葵
花高	花高	空掬	夕歌	夕歌	若紫
			須戸	夕歌	若紫
須戸	花高	空掬	夕歌	夕歌	若紫
			明若	葵	若紫
明若	葵	若紫	明若	葵	若紫



漣標 冬生 夏生 繪合

松風 薄雲 初音 小蝶 乙女

公菖 初音 小蝶 雲

常夏 籜火 野分 行幸

蘭 馬水柱 梅枝 菱葉系

若葉上 若葉下 柏木 横笛

吟虫 夕露 沝法 幻

白宮 紅梅 竹川 橋坂

椎木 總角 早蕨 宮木

東屋 浮舟 晴蛉 手書

初桐壺と終夏乃浮橋とと除と宇の衣目と名

く番の圖入名とて

源氏香記

番組  
云四三二一  
月日日 日

二二二二

名系 三

同 玉

同 同 同 同

𠄎 𠄎 𠄎 𠄎

かひく大

まのり

繪合

小ふ

二

一

二

年号月日

於何亭  
出音雅

花月香

香敷う程一色二色三色何事も花の香の色又月一色月

二色月二色世門を色つる色減之又を色つる中香

花方月方とてなれ花方れと世香元

は花又月方れと世香元乃方後く居り

乃右別世同く花一の試と花もれと世か

花一の試も同く花一の試と花方末と世

花方と世か大事花もれは大事と花方末と世

番元一返と花一の試と花方と世かと大事同

前一月一乃試と月方れと世かと世有二月三

とも試大事八月と世かと世試終りく世香

初之始ハ花方と其のあつ後之始ハ月方  
と其のあつと其のあつと其のあつ

花方

月乃香道正の外ハ何れも其のあつ  
月試と大末とアホリと

花三と其のあつ二点指す二点

花三と其のあつ二点指す二点

花三と其のあつ二点指す二点

月方

花の香あつ一と其のあつ二点

花試ハ大末とアホリと

月三と其のあつ二点指す二点

月三と其のあつ二点指す二点

月三と其のあつ二点指す二点

花方と其のあつと其のあつと其のあつ

花方と其のあつと其のあつと其のあつ

持子書之一点と二里と引高り点取多

江の勝

元月番之記

香組

元二 元一 月二 月一

元二 元一 月二 月一

追加元二

元方

札收

元元月元月元月二

元二月二

同

元元月元月二

元六月二

同

元元月元月二

元六月一

月方

同

元元月元月二

元元月二

同

元元月元月二

元二月一

同

元元月元月一

元二月一

年号月日

歌何亭  
如香誰

追加

記福点勝持未進池原り追加と國事の元時  
六色の短束成之乃々々色て外之新々客之色  
か々七色お更々々色色短之是子成り

中より大車二匹をひきつるなり

点星の事

花月名別なく故葉乃南の何と点の傍より  
二点大車成客をひきつる大車二匹二星を  
末と雄末の也と云ふは遠の事なりと云ふ二点  
猶更ふと云ふ

### 名所考

番敷田往尾二尾三尾は内なる色に色波のり色波の  
故葉十色に盤乃也と云ふ故葉の事と云ふ吉野方龍田  
方と云ふは吉野方ハ橋と人救河盤乃  
端と云ふは吉野方ハ橋と人救河盤乃  
ハ橋と云ふは救河の内及右ハ橋の事と云ふ  
と云ふの事なりと云ふは橋の事なり  
凡骨告えは東村先凡骨の事と云ふは橋  
字の事なりと云ふは橋の事なりと云ふは  
凡の事なりと云ふは橋の事なり

之より教ふことありて後江を運んで双方より中略  
 上りてありて中略より花の城にて建てる中  
 洛道行くとありて海側の城ありて花の城より  
 中略へ入りてありて一二のありて一五より中略  
 中略より中略のありて一五より中略より右五  
 左五より中略双方点燈して後略式は持し書く

名所番し記

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

香爐  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

芳野方 膳

<sup>名所</sup>  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

同 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

同 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

就田方

同 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

同 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

同 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

年月日

歌何亭  
書香館

競馬香

番敷四粒一色二色三色客色廿月き色く試の中香  
十二色打更く二色に除赤り十色と粒之盤ゆく  
一粒客之赤方是方別是客の連中入の対相  
と二十色の月ふらるる固八人の時二十色とる固八人  
乃時二十色のにらるる根の赤方とる根と競る  
と或結とに花極ふ出の中客成沈沈ふれと一色  
尚中と花ふらるる花双方客競は馬ふく人相  
運ふ一人客と客すむと盤にふらるる客八人相  
客と客と客はけ時一人客有も客と客  
客ふなれハ又馬上客競りて双方客の競と及勝  
持よまらる

競馬香之記

香組  
一  
二  
三  
四  
日  
日  
日  
日

札紋

二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二

七

固

二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二  
二

七

同	同	同	同
ニ	ニ	ニ	ニ
一	二	一	二
ウ	ウ	ウ	ウ
一	一	一	一
二	二	二	二
一	二	一	二
ウ	ウ	ウ	ウ
一	一	一	一
二	二	二	二
一	一	一	一

年号月日

歌何亭  
か音准

矢数番

番数に種一<sub>二</sub>二<sub>三</sub>三<sub>四</sub>三<sub>五</sub>三<sub>六</sub> 客<sub>七</sub>世<sub>八</sub>に<sub>九</sub>を<sub>十</sub>色<sub>十一</sub>試<sub>十二</sub>の<sub>十三</sub>色<sub>十四</sub>  
 を考<sub>十五</sub>の<sub>十六</sub>種<sub>十七</sub>の<sub>十八</sub>類<sub>十九</sub>に<sub>二十</sub>中<sub>二十一</sub>考<sub>二十二</sub>の<sub>二十三</sub>種<sub>二十四</sub>の<sub>二十五</sub>類<sub>二十六</sub>の<sub>二十七</sub>種<sub>二十八</sub>の<sub>二十九</sub>類<sub>三十</sub>  
 傍<sub>三十一</sub>の<sub>三十二</sub>種<sub>三十三</sub>の<sub>三十四</sub>類<sub>三十五</sub>の<sub>三十六</sub>種<sub>三十七</sub>の<sub>三十八</sub>類<sub>三十九</sub>の<sub>四十</sub>種<sub>四十一</sub>の<sub>四十二</sub>類<sub>四十三</sub>の<sub>四十四</sub>種<sub>四十五</sub>の<sub>四十六</sub>類<sub>四十七</sub>の<sub>四十八</sub>種<sub>四十九</sub>の<sub>五十</sub>類<sub>五十一</sub>の<sub>五十二</sub>種<sub>五十三</sub>の<sub>五十四</sub>類<sub>五十五</sub>の<sub>五十六</sub>種<sub>五十七</sub>の<sub>五十八</sub>類<sub>五十九</sub>の<sub>六十</sub>種<sub>六十一</sub>の<sub>六十二</sub>類<sub>六十三</sub>の<sub>六十四</sub>種<sub>六十五</sub>の<sub>六十六</sub>類<sub>六十七</sub>の<sub>六十八</sub>種<sub>六十九</sub>の<sub>七十</sub>類<sub>七十一</sub>の<sub>七十二</sub>種<sub>七十三</sub>の<sub>七十四</sub>類<sub>七十五</sub>の<sub>七十六</sub>種<sub>七十七</sub>の<sub>七十八</sub>類<sub>七十九</sub>の<sub>八十</sub>種<sub>八十一</sub>の<sub>八十二</sub>類<sub>八十三</sub>の<sub>八十四</sub>種<sub>八十五</sub>の<sub>八十六</sub>類<sub>八十七</sub>の<sub>八十八</sub>種<sub>八十九</sub>の<sub>九十</sub>類<sub>九十一</sub>の<sub>九十二</sub>種<sub>九十三</sub>の<sub>九十四</sub>類<sub>九十五</sub>の<sub>九十六</sub>種<sub>九十七</sub>の<sub>九十八</sub>類<sub>九十九</sub>の<sub>百</sub>種



等小波の魔と括てすも十一分あり金の魔  
 と括て十二分あり矢の盤以上有れば  
 此盤六十あり十ある花界の間は  
 亦る金界の盤より下には其の字派書とのり  
 取書

矢取番と純

香組 一  
 二二 二二 一  
 二二 二二 一  
 二二 二二 一

名  
札取

一二二 二二 一  
 一二二 二二 一  
 一二二 二二 一

同 二二 二二 一  
 同 二二 二二 一  
 同 二二 二二 一

同 一 二二 二二 一  
 同 一 二二 二二 一  
 同 一 二二 二二 一

年号月日

於何亭  
 か香催

連理香

法式傳の初を擧ぐらるる事あり  
 此之先師の授に似て但香秘花文  
 授はけ組香より下に記す事あり

この紙は...の...

文化十癸酉年菊月十七日

Handwritten notes in cursive script, including the date and other illegible characters.

